

# 卒業・進級におすすめの本

ちえちゃんの卒業式 Barrier free しょうがいつてなあに?【小学館】  
(写真・文)星川ひろ子

715グラムの赤ちゃんでした。入学する頃になっても一人じゃ立てませんでした。だからお母さんと一緒に、近所のお友達と小学校へ通いました。つらいことも、うれしいことも、みんな栄養にして「ちえちゃん 卒業おめでとう！」

ともだち【講談社】

(作・絵)太田大八

背の高い子、低い子、暗算の得意な子、絵が上手な子……。どのクラスにもいそうな、個性豊かなともだち。20年後には何してるかな？

子どもたちが将来を想像するきっかけになるかも。

たいせつなこと【フレーベル館】

(作)マーガレット・ワイズ・ブラウン

(絵)レナード・ワイズガード

(訳)うちだややこ

当たり前すぎて見過ごしている自然やモノとのかかわりを新鮮な驚きで自由にとらえた本。

アメリカで読み継がれてきたロングセラー。

ともだちはどこ?【ぶんけい】

(作)ジョン・ウォルシュ・アングランド (訳)小川 糸

一人でも多くのともだちを作ることが、大事なのだと思いませんか。ともだちの少ない自分は、さみしい、なんて、感じてはいませんか。

でも、たった一人でも、時には人以外の相手でも、愛しく思うことが大切なのです。

小さな声に耳をすましていれば、きっと、素敵な出会いが訪れますよ。

ぜつぼうの濁点【教育画劇】

(作)原田宗典 (絵)柚木沙弥郎

そこは、ひらがなの国。「ぜつぼう」の「せ」に仕える「」濁点は、自分の存在こそが主人を絶望させているのだと悩む。

「ぜつぼう」と別れた濁点が、「きぼう」の「」濁点となるまで。

最初の質問【講談社】

(詩)長田弘 (絵)いせひでこ

中学3年生の国語の教科書にも掲載されている詩。

「今日、あなたは空を見上げましたか。」

いせひでこさんの素晴らしい絵と言葉のコラボです。

